



なんも無い町は宝の山だった!?

大洲市地域おこし協力隊

小泉 信二



地域おこし協力隊になった!

「帰省するたびに活気のなくなる故郷を元気にしたい」そう思ったのが、地域おこし協力隊を目指したきっかけです。高校卒業後、県外の大学へ進学するため故郷大洲市を離れました。卒業後もそのまま県外で就職し、イベントディレクターとして働き、その後は不動産業、教育業と職を変え、気が付けば故郷を離れて23年が経ち、40歳になっていました。そんな時、大洲市が地域おこし協力隊を募集していることを知り、「40歳を過ぎたおっさんは採用されんたる?」と、思いながら応募した結果、2017年4月1日、Uターン協力隊として大洲市河辺地域に赴任することになりました。

河辺町にやって来た!

河辺町は平成17年1月11日に大洲市と

合併した3方を1000m近い山々に囲まれた地域です。私は大洲市出身ですが、河辺町は実家から車で1時間ほどかかり、私にとって未知の場所でも不安もありました。ただ、地域の方たちとは早い段階でいろいろとお話をする機会があり不安は和らぎましたが、「よう、こんにちはなんも無いとこ来たの」「ここはどん詰まりじゃけん、何しても無理じゃわ」などと、悲観的な言葉をたくさん耳にし、「ここは、負け犬根性の吹き溜まりかっ!」と感じていました。しかし、河辺町の良いところをたずねると、みんな笑顔でいろいろなことを教えてくれ、「本当はこの町のことが大好きなんだ」と知ったとき、自分はここで頑張っついでこうという覚悟ができました。

最初のミッション!

「町内全戸あいさつ回り」が最初のミッションです。約3か月間をかけて全戸訪問しました。町内をよく知り、町

民の方に自分の存在を知ってもらおうという点で、このミッションは非常に効果的でした。町民の方のお話を早い段階で聞くことができたのも、このミッションがあったからだと思います。

本来のミッション(1)

私の本来のミッション(1)は、地域おこし団体河辺の未来を考える会での活動です。同団体は現在、農林水産省の農山漁村振興交付金を受けているため、その活動内容は多岐に及びます。その中でも印象深いのは、地元住民・移住者の雇用の場を創出するため、特産品を開発・販売し、その加工場をつくるというプロジェクトです。昨年からは現在も進行



みぎゃんといっしょ